

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会記録

1 会議の日時	<p style="text-align: center;">平成30年3月13日</p> <p style="text-align: right;">開 会 午前 10 時 58 分 閉 会 午前 11 時 28 分</p>	
2 会議の場所	<p style="text-align: center;">第3特別委員会室</p>	
3 出席者	委 員	<p>委員長 駒 田 誠 副委員長 野 島 征 夫 委員 松 村 多美夫 伊 藤 秀 光 脇 坂 洋 二 太 田 維 久 野 村 美 穂 酒 向 薫 山 田 実 三 澄 川 寿 之</p>
	執 行 部	<p style="text-align: center;">別 紙 配 席 図 の と お り</p>
4 事務局職員	<p>主査 岩田 昌也 課長補佐 此島 祐司</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 中間報告について	原案のとおり承認
2 その他	

6 議事録(要点筆記)

○駒田 誠委員長

ただいまから、これからの健康・医療・福祉対策特別委員会を開会する。
本日の委員会は、中間報告案について協議するために、開催したものである。
それでは、中間報告案について協議願う。
文案については、あらかじめ準備し、お手元に配布してあるので、書記に朗読させる。

(書記朗読)

○駒田 誠委員長

ただいまの中間報告案に対し、意見はあるか。

○脇坂洋二委員

意見はないが、歳を重ねるごとに気力が萎え、病気になりがちになる。中間報告案には、60歳からの高齢者のことだけでなく、70歳を超える高齢者のこともしっかりと記載されており、評価したい。

○駒田 誠委員長

この文案のとおり決定し、報告することに異議ないか。

(「異議なし」の声あり)

○駒田 誠委員長

異議がないようなので、そのように決定する。なお、趣旨を変更しない字句の整理については、正副委員長に一任願う。

さて、本日の議題は終了したが、本年度は、「健康を支える生活習慣づくり」をテーマにして調査を行った。具体的には、桜美林大学の鈴木教授、千葉大学の近藤教授の2名を参考人としてお招きした。また、昨年8月には、千葉県の柏市にある柏地域連携センター等への視察を行った。

せっかくの機会であるので、各委員に一言ずつ、参考人の説明や視察の感想、または次年度の調査テーマ、当委員会のテーマにあった視察候補地などについて、自由に意見をお聞かせいただきたい。

○野島征夫副委員長

当初、これからの健康・医療・福祉というテーマについて戸惑いもあったが、駒田委員長の下、様々な調査を行い、大きな成果があった。特に2人の参考人による講義や千葉県柏市の視察では、データや科学的根拠に基づいた説明があり、健康、医療、福祉に対する正しい認識を持つことができた。超高齢化社会を迎え、健康、医療、福祉は大事なテーマであり、身近な課題としてさらに対策を進めていただきたい。今後、岐阜県の健康、医療、福祉分野は高水準を目指していただき、一部の地域にとどまらず、全県下の共通課題として推進していただきたい。

○伊藤秀光委員

次年度は、特色ある施策により健康寿命が延びたという結果が出ているところがあれば、そこを視察

先としたい。また、統合医療の議員連盟もあり、医療に対するいろんな考え方もある。今年度の大学教授の話もよかったので、参考人招致は継続していただきたい。

○太田維久委員

今回の特別委員会は、いろんな意味で有意義だった。まず、フレイルという言葉が徐々に一般にも使われるようになった。また、私も一般質問させていただいたが、データやエビデンスに基づく健康づくり政策ということが、ITをはじめ、様々な技術的進歩と相まって、より効果的に健康づくりが進んでいくと思う。中間報告にも書いてあるが、社会保障費を持続可能なものにしていくことが大変重要であるため、データで説得力をもって提示できるというのは、執行部にとっても有意義なものとする。今回は、フレイルにしてもデータの活用にしても、大きな枠組みのようなものを学んだ。来年度はこういったことをベースにしながら、具体的に地域の政策に落とし込んでいるような事例、例えば、データやエビデンスという点では、食による健康づくりに結びついている事例や、まちづくりで課題ともなっている、地域包括ケアシステムを含めた地域づくりなどを学びたい。岐阜県は都市部も山間部もあり、様々な事例もあるかと思うので、そうした事例を学び、検証しながら県の施策に生かしていくことができると思う。最後に、データの活用については本当に期待するところが大きい。本特別委員会の知見を生かして、データヘルスという政策は進められたが、これが他の都道府県からも参考になるように、そして確実に市町村も含めて実施できるように求めたい。

○酒向 薫委員

本年の1月20日に、関市でフレイルについての研修会を開催したところ、120人ほど参加された。特別委員会でもこうした新たな健康づくりを学ぶことができ、有意義であった。各県が健康づくり・健康年齢の延伸で競り合っているが、最終的には市町村が主体となり、身近な健康づくりに取り組んでいただくことが必要であるため、市町村との連携が重要。早期発見、早期治療という点では、40%ぐらいしかない健康診断の受診率を上げていくことも重要。来年度事業として野菜ファーストの取り組みが行われるが、継続して取り組み、そして結果を出していくことが重要。また、市町村の公園で高齢者が使える健康遊具を見かけたが、健康づくりを進める上で、こうした遊具をふやすことも大事。来年度は先進例をみながら、身近な健康づくりで結果を出していくことをお願いしたい。

○澄川寿之委員

1年間勉強して感じたことは、健康に対するさまざまな情報が増えてきているということを実感している。県民にこうした情報をどう正しく選択していただくかというのも重要。県民にどういった情報を提供していくのか、正しい情報を伝えていけるのか、ということも大きな課題になっている。認知症対策に携わる方が勧める食事の内容と、がん対策に携わる方が勧める食事の内容は違うなど、自分にとって必要な、正しい情報の精査というのが非常に大切だと実感した。

○山田実三委員

健康づくりで大事にする3つの要素としては、食、運動、社会参加。これが、2人の参考人の話と県外視察で共通していた点だと思う。これらをライフステージに合わせて取り組んでいくことが大事。中間報告にある「健康立県ぎふの実現を目指し、適時適切な施策が講じられるよう期待」というのは少し抽象的すぎて、もう少し深化させる必要がある。今後の取り組みについては、健康寿命の延伸が、個人

の幸せであったり、地域の活性化であったり、社会保障関係費の抑制につながることは全員が理解されているが、どうしていくのか。私としては、人生後半のステージに焦点を合わせ、情報を分析して健康づくりをしたらどのような変化があらわれるかについて委員会として提案できればいいと思う。また、実績の評価ができるような指標を提案し、それが県計画に取り入れてもらえるようであれば、特別委員会がより意義のあるものとなるのではないかと。来年度はそこまで踏み込んでいけたらと思う。

○野村美穂委員

言葉のイメージが非常に大きいと参考人の話を聴いて感じた。私の場合、若い、高齢、介護、寝たきりなど、他人事のように感じている言葉が耳から入ってくると、どうしても拒否反応を示してしまう。やはりどこかで老いていくことの恐怖感があるのではないかと自分自身も強く感じた。今後はこうした言葉を、よりポジティブに受け入れていただける取り組みが必要と感じた。

先ほど、高齢者向けの遊具という話を聞いて思い出したのが、九州のやねだんの取り組み。焼酎づくりなどで収益をあげている有名な地域。そこも腰をツイストする器具などが設置していることを紹介したい。

先日、長野県伊那市がダイエットを主目的とするトレーニングジムと協働して、高齢者の介護予防に関わる取り組みを報じた番組を見た。この取り組みは、医療費の抑制につながる結果が出た場合、抑制した分を同ジムに還元する仕組みであり、非常に興味深い。タイミングが合えば、来年度視察に行きたい。

○脇坂洋二委員

このところ、テレビでも健康に関する番組が多く放送されている。私は50歳から60歳の時期にはスポーツは、何でもできた。この健康な時期に、しっかりと健康教育をやっていたらいい。健康を害してからでは遅い。健康な時期にこそ、健康教育をするべきだと痛切に思っている。そうした施策を実施してほしい。駒田委員長は、健康や医療に特に関心が高く、造詣も深い。委員長のリーダーシップにより、すばらしい委員会となった。

○松村多美夫委員

最初の特別委員会の際、厚生環境委員会と同じ内容ではないかと、申し上げたところ、委員長の指導の下、方向性を変えていただいた。健康には、食、運動、社会参加の3つが大事だと分かった。同じ高齢者対策といっても、年代に応じた高齢者対策をやっていかないとお金もかかるし、効果が薄れることを学んだ。これからは、スポーツやミナレク運動といったレクリエーションを楽しみながら健康寿命を延ばしていくことが大切になってくる。食も大事だが、高齢者が社会参加しながら、身体を動かして健康寿命を延ばしていくことが大切。こうした取り組みは岐阜県も一所懸命やっているところだが、健康寿命の長いところの視察をして、どういうことをやれば健康寿命が延びるのがわかればいいのではないかと。

○駒田 誠委員長

皆さんから貴重なご意見をいただいた。キーワードとしては、健康寿命、フレイル、ビッグデータ、社会保障費の抑制、食と健康づくり、地域包括ケアシステム、市町村との連携、早期発見・早期治療、健康遊具など。いずれにしても、ポジティブでより元気な社会づくりができればいいと思う。この特別

委員会の名称は、「これからの健康・医療・福祉対策特別委員会」であり、少子高齢化、そして人口減少に直面する現状においてはいずれも重要な項目である。また、相関関係にあるものでもあり、どの切り口からでも、よい方向を施策に結びつけたいものである。本年度は、「健康を支える生活習慣づくり」の切り口で進めさせていただいたが、次年度は、本日の御意見を参考とし、具体的な施策にしっかりとつながっていく提言もできるような新たな調査テーマで進めたいと考えているので、よろしく願いたい。

他に意見はあるか。

○野村美穂委員

新聞の広告欄に、「メタボでない県」として岐阜県が1位という見出しがあったが、参考となる意見があれば教えてほしい。

○稲葉健康福祉部次長兼保健医療課長

委員から指摘のあった記事はまだ把握していないが、従来から、ヘルスプランぎふを策定している過程からも、メタボに関する数値は岐阜県はそれほど悪くはない。一方、心疾患については、岐阜県の成績はよくない。そこをしっかりとやっていないといけない。わかりやすい指標や、覚えやすいキャッチフレーズは県民に対して非常に有効。先ほどの話のあった、野菜ファースト事業もそのような考えに基づくもの。グッドプラクティスから学ぶことも大事。

○松村多美夫委員

野菜ファーストというネーミングはいい。

○酒向 薫委員

野菜には、根っこや葉っぱのものがあるし、最近では、千寿藻という野菜がスーパーでよく売れている。医食同源という言葉もあるほど。岐阜県でとれる野菜もあるが、どういう野菜をすすめるのか。

○稲葉健康福祉部次長兼保健医療課長

地元で根差した地域の野菜を大事にしていくと、例えば学校給食の中で地元の野菜を取り入れると、食育や情緒的な学習にもつながる。

○酒向 薫委員

医食同源という考えはあっているのか。

○森岡健康福祉部長

食事と健康は密接に関連している。

○駒田 誠委員長

御意見も尽きたようなので、本日の議題を終了する。

なお、この特別委員会は、2年を目途に委員会として一定の提言を行うことを目指すものである。

そのため、特段の事情がない限り、来年度もこのメンバーで当委員会を開催するので、引き続き、よろしく願います。

それでは、これをもって、本日の委員会を閉会する。

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会 配席図

平成30年3月13日(火) 議案説明会終了後
第3特別委員会室

入
口

--	--	--	--	--	--	--	--	--

--	--	--	--	--	--	--	--	--

鹿嶋 地域スポーツ課 レクリエーション・ 健康づくり推進監	箆橋 高齢福祉課長	稲葉 健康福祉部次長 兼保健医療課長	西垣 健康福祉部次長	森岡 健康福祉部長	兼山 健康福祉部次長 (福祉担当)	長沼 健康福祉政策課長	野田 体育健康課長	
--	--------------	--------------------------	---------------	--------------	-------------------------	----------------	--------------	--

山田(実) 委員

○

野村 委員

○

脇坂 委員

○

松村 委員

○

○

澄川 委員

○

酒向 委員

○

太田 委員

○

伊藤(秀) 委員

○

○

駒田 委員長

野島 副委員長